

【経済学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

適切性について点検・検証した。

② シラバス

適切性について点検・検証した。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

科目ナンバリングについて、特定分野に科目数の偏りが見られたので、分野設定を見直した。

課題

引き続き適切性について点検・検証する。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学習成果実感調査の設問と分析区分を見直した。

課題

見直しの初年度のため、時系列分析のためには継続的な調査が必要となっている。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

学習成果実感調査によるとシラバス記載の到達目標の80%以上到達できたと回答した割合は春32%（前回31%）、秋36%（同40%）、シラバス記載の到達目標の60%以上到達できたと回答した割合は春92%（同91%）、秋93%（同92%）となっており、円滑に講義を進めた結果、履修生は到達目標の過半は達成できた

ものと評価される。

また、身に付いた知識・スキルについての学部独自設問の回答を集計した結果、講義系科目では DP1（経済学的思考）と DP2（論理的・多角的な分析）が、演習系科目では DP3（発信力）と DP4（倫理性・実行力）が、データサイエンス系科目では DP2 のうちデータ分析力が身に付いていることが確認できた。

課題

データサイエンス系科目についての分析は初年度のため、定着について確認するため継続的な分析が必要となっている。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

アセスメント科目について分析した結果、必修の経済学入門Ⅰ（春学期、除再履修クラス）の対登録者合格率は 76.2%（前年度 78.2%）、対受験者合格率は 81.9%（同 82.8%）で合格者の 39.2%（同 36.4%）は 80 点以上（秀・優）であった。データ分析セミナーは履修者数 368 人に対して単位取得者 303 人で学習成果実感調査の自由回答では「データ分析スキルがアップしたと実感した」「1 回生のときより分析力が上がった」等成長を実感したとの回答が多かった。演習Ⅲは登録者数 502 人に対して単位取得者数 484 人（対登録者合格率 96.4%）、演習Ⅳは登録者数 446 人に対して単位取得者数 285 人（同 63.9%）であった。

② 課題

就職活動の早期化もあり演習Ⅳの単位修得状況が足踏み状態となっている。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☐ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。
- ②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

教授会等で審議の結果、現状のままとした。

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。